
「いばらき医療福祉研究集会」の実績と意義

今 高 國 夫
平 野 千 秋

1. はじめに

高齢社会の急速な進展によって、2025年の推計では3人に1人が高齢者となるといいます。近年、老人保健法（1982年）、老人保健施設創設（1986年）、ゴールドプラン（1989年）、福祉8法改正（1990年）、老人訪問看護制度（1991年）、新ゴールドプラン（1994年）など国の医療福祉政策もめまぐるしく展開しています。2000年の介護保険も問題を抱えながらも、スタートして1年8ヶ月が経過しました。この度、これらの時代にあって、著者らが取り組んできた医療福祉実務者による研究会（「いばらき医療福祉研究集会」）について、その概要を解説し、その意義について考察を加えました。

2. 「いばらき医療福祉研究集会」開催の経緯

(1) 開業医医療研究会の発足

1988年(昭和63年)、11月20日、著者今高らの呼びかけで、「第一回茨城県開業医医療研究会」が、国立霞ヶ浦病院地域医療研修センターで開催されました。それまでは著者ら開業医が数人集って、日常診療での意見交換会である「臨床懇談会」（1985年発足）をあちこちの地域で開いていましたが、著者らの提唱で、もっと大きく広く呼びかけて集会を開いてみようということになったのです。主催は医科歯科の開業医の団体である茨城県保険医協会です。主旨として(1)地域医療を担う、開業医でなくてはできない第一線医療の充実をめざし、経験例等を発表し合う。(2)大学病院や大病院が中心の学会は多いが、それとはスタンスの違う身近な学会にしよう。(3)コメディカルなどが参加して、交流できる場としよう。というものでした。集会にはサブテーマ「身近な症例をもとに」が付けられました。発表し合った成果は予想を上回る盛会で、開業医の生涯研修に希望もてる一石を投じるものと評価されました。演題25題。スライド供覧4題。特別講演として筑波大学社会医学系教授小田 晋氏による「日常診療におけるメンタルヘルス」があり、参加者は約100人でした。

(2) 「つくば国際大学」を会場に、「いばらき医療福祉研究集会」と改称

第1回から第10回まで、以下に示すとおり、「茨城県開業医医療研究会」が毎年開催されてきま

した。会場は、第7回まで、国立霞ヶ浦病院地域医療研修センター、第8回は県立医療大学、そして第9回目（1996年）以降、本年（2001年）の第14回まで、「つくば国際大学」にて開催されました。その後、順調に、年々、盛会に開催されて、地域の大きな研究集会として定着してきました。

研究集会の回数を重ねるにしたがって、共催団体、後援団体も多くなって、県内の医療・福祉に関わる団体をほぼ網羅した状況です。従って、実行委員会にも各団体からの参加が多くなりました。医師・歯科医師・薬剤師・看護職・理学療法士・作業療法士・栄養士などの医療関係各職種。そして、介護福祉士・社会福祉士・介護保険ケアマネージャー・社会福祉協議会など福祉関係者も加わって、層が厚くなってきました。したがって研究会当日の参加人数と職種の幅も、必然的に大きく増加しました。さらには、教育効果の面から、看護、リハビリ、福祉関係の学生の参加も加わりました。また、各分野からの発表演題も多くなり、バラエティーに富み、現実を踏まえた豊富な内容となって、参加者に貴重な示唆を与えるものになってきました。

そこで、第11回からは「茨城県開業医医療研究会」を改め、「いばらき医療福祉研究集会」としました。新しい形態として、当然の帰結であり、各職種からの実行委員会の討議をふまえた選択でした。副題も「身近な症例をもとに」を「明日の医療・福祉のために」と改めました。また、第14回の副題は「21世紀の医療・福祉のために」と変更されました。第13回(昨年)78題、参加829人、今年第14回は更に、85題、945人にも及んでいます。このように、開業医の小規模な研究会から大きく発展して、茨城県における「医療福祉の大研究集会」の様相を呈してきました。

毎回、一般演題の発表の他、メインイベントとしての「特別講演」或いは「記念講演」を開催してきました。テーマ及び講師は、実行委員会が討議して決定するものですが、研究会発足以来14年間、医療福祉情勢のめまぐるしい変化を背景にして、ゴールドプランや介護保険制度の発足に伴う現場の諸課題など、その時々の特ピックスや取り上げるべき課題に沿ったものでした。その意味では、まさしく医療福祉をめぐる歴史の反映そのものといった側面をもっております。

特別講演等のテーマと講師の概要

第8回以前は以下のとおり。第1～7回は国立霞ヶ浦病院で、第8回は県立医療大学で開催。

第1回茨城県開業医医療研究集会（1988・11・20）

特別講演「日常診療におけるメンタルヘルス」

筑波大学社会医学系教授 小田 普氏

第2回茨城県開業医医療研究集会（1989・11・23）

特別講演「患者の立場からみた開業医像」

日経メディカル編集長 盛 宮喜氏

第3回茨城県開業医医療研究集会（1990・11・23）

特別講演「地域における老人医療～地域ケアから在宅ケアへ」

鈴木内科医院院長 鈴木莊一氏

教育講演「在宅医療におけるリハビリ指導～寝たきり老人を起き上がらせるには」

日本理学療法士会茨城支部会長 岡安利夫氏

シンポジウム「介護者から見た在宅ケアの問題点」

第4回茨城県開業医医療研究集会（1991・10・20）

特別講演「尊厳死の選択」

日本尊厳死協会会長、一橋大学名誉教授 植松 正氏

教育講演「在宅ケアの展望」

筑波メディカルセンター病院看護部ホームケア 下村千里氏

シンポジウム「在宅ケアにかかわる各職種間の連携」

第5回茨城県開業医医療研究集会（1992・11・29）

特別講演「高齢化社会における医療福祉制度の選択肢～日本型福祉の展望」

阪南中央病院内科医長 岡本祐三氏

シンポジウム「訪問看護の現場から」

第6回茨城県開業医医療研究集会（1993・11・23）

特別講演「在宅ケアの現状と展望」

川崎幸病院副院長 杉山孝博氏

シンポジウム「各科の開業医と在宅医療」

第7回茨城県開業医医療研究集会（1994・11・23）

特別講演「医療福祉ネットワークづくりの進め方～ゆきぐに大和町の実践例から」

ゆきぐに大和総合病院名誉院長 黒岩卓夫氏

シンポジウム「地域リハビリテーションを進めるには」

第8回茨城県開業医医療研究集会（1995・11・23）

特別講演「声なき声を聴きながら～意識障害患者と歩んだ20年」

筑波大学大学院医科学研究科教授 紙屋克子氏

シンポジウム「現場からつくる地域ケア」

つくば国際大学を会場として、第9回から第14回まで開催。第11回から名称をいばらき医療福祉研究集会に変更。

第9回茨城県開業医医療研究集会（1996・11・23）

特別講演「公的（高齢者）介護保険制度と医療改革」

日本福祉大学社会福祉学部教授 二木 立氏

シンポジウム「第一線医療の新しい展開」

第10回茨城県開業医医療研究集会（1997・11・23）

特別講演「患者の言い分～COMLに届いた声から」

ささえあい医療人権センターCOML代表 辻本好子氏

パネルディスカッション「かかりつけ医とは」

歯科シンポジウム「保険診療でつくる効率のよい入れ歯」

第11回いばらき医療福祉研究集会（1998・11・3）

特別講演「地域連携と在宅支援のあり方」

北海道大学医学部付属病院総合診療部教授 前沢政次氏

歯科特別セミナー「歯牙保存と咬合改善を考える」

今井歯科クリニック院長 今井文彰氏

第12回いばらき医療福祉研究集会（1999・11・23）

記念講演「介護保険制度の展望」

大阪市立大学生活科学部人間福祉学科教授 白澤政和氏

特別講演「寝たきりにさせないための急性期の口腔ケア」

都立心身障害者口腔保健センター副所長 大竹邦明氏

シンポジウム「摂食嚥下障害」

第13回いばらき医療福祉研究集会（2000・11・23）

記念講演「介護保険制度の課題と医療・福祉の対応」

日本医科大学リハビリテーション科教授 竹内孝仁氏

シンポジウム1「口腔ケアの実際」

シンポジウム2「介護保険と地域ケアネットワークづくり」

第14回いばらき医療福祉研究集会（2001・11・23）

記念講演「がんばらない～命を支えるということ」

諏訪中央病院管理者 鎌田 實氏

特別講演「要介護高齢者の食支援」

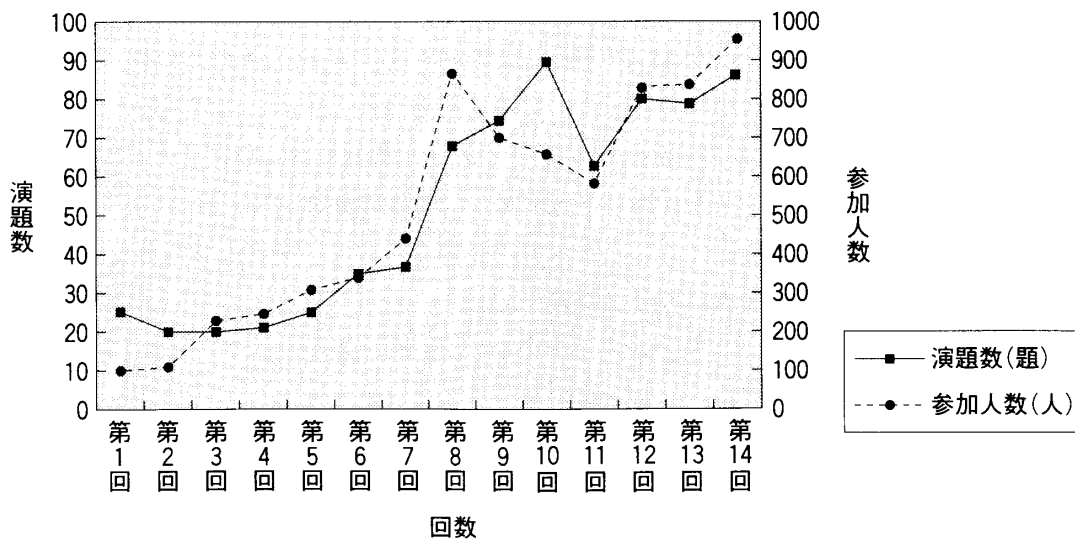
加藤歯科医院院長 加藤武彦氏

シンポジウム「各職種から見たネットワークの意義とチームアプローチ」

いばらき医療福祉研究集会への参加者と演題数の推移

演題数, | | 内は教育用スライド供覧数, 参加人数

第1回	25題	4題	100人
第2回	20題	3題	111人
第3回	20題	2題	226人
第4回	21題	2題	242人
第5回	25題	1題	302人
第6回	35題	1題	340人
第7回	36題		441人
第8回	68題		868人
第9回	74題		695人
第10回	89題		651人
第11回	62題		574人
第12回	79題		822人
第13回	78題		829人
第14回	85題		945人



いばらき医療福祉研究集会への参加者と演題数の推移

第14回（2001年）いばらき医療研究集会参加者945人の職種

看護婦(士) 178, 保健婦 9, 医師54, 歯科医師24, 薬剤師 7, 理学療法士24, 作業療法士12, 介護福祉士25, 社会福祉士12, 学生212, 企業ボランティア65,

ヘルパー，施設職員，行政，市民ボランティア等323

第14回（2001年）いばらき医療福祉研究集会の共催・後援

主催：茨城県保険医協会

共催：県南地区医師会学術連絡会，社団法人土浦市歯科医師会，社団法人茨城県看護協会，社団法人茨城県薬剤師会，社団法人茨城県理学療法士会，茨城県作業療法士会，社団法人茨城県栄養士会，茨城県介護福祉士会，社団法人茨城県柔道接骨師会，茨城県鍼灸師会，茨城県社会福祉士会，茨城県歯科衛生士会，県南ケアマネジャー懇話会，土浦ケアマネジャー研究会，水海道地区介護支援専門員連絡協議会，茨城県地域ケア研究会

後援：茨城県，茨城県総合リハビリテーションケア学会，日本プライマリ・ケア学会茨城県支部，土浦市社会福祉協議会，つくば市社会福祉協議会，石岡市社会福祉協議会

3. 「いばらき医療福祉研究集会」の意義と方法

なぜ，このように，質，量ともに充実した研究集会になることが出来たのでしょうか。やはり，保健・医療・福祉に携わっている現場の実務者にとって，経験交流を含めた，気軽なこのような研究の場が，必要なものであり，お互いのレベルアップの機会，格好の研修の場の提供になっていることを物語っています。内容的にも，より実践的な問題の掘り下げ，チームアプローチ的な手法と展開，タイムリーでニーズにあったものなど，充実してきました。

発表方法として，一般演題については，会発足の時から，「学会発表」形式を採り，演題を募集して，採用の是非を決定。分野別に座長を置いて，発表，討論としています。最近ではポスターセッションの形式によるものも増えつつあります。（第13回は11題，第14回は16題でした。）融通性のある手作りの学会として，成長しています。ややもすれば，この種の研究会は，熱心，活発にもかかわらず，その場限りの論点の定まらないものになってしまいがちです。そうならないためにも，しっかりと「学会発表」形式の採用は理にかなったものでした。

毎年，発表者による抄録提出により，冊子「研究集会記録集」を発刊しています。

なお，第3回から，コメディカル，一般市民も参加するようになったので，会の意義と主旨を端的に表そうと，毎回「いばらき医療福祉研究集会アピール」（第10回までは「茨城県開業医医療研究会アピール」）を採択して，発表しています。

第9回（1996年）及び第10回（1997年）茨城県開業医医療研究会アピール

今日，私たちは一堂に集まり，医療を中心に保健・福祉など，広範な課題について，真剣に勉強した。

開業医医療は開業医だけのものではなく，常に地域社会の中にあり，時代のニーズに応じて進展し，発想の転換を求められるものである。

この回で得た数々の成果を糧として，病院・開業医医療，保健，看護，介護，地域リハビリテーションなど，

相互の連携をさらに強め、その輪を広げて、生き甲斐のある地域社会を構築する努力を重ねることを誓い、〈発表する生涯研修〉としての開業医医療研究会の場を大切に、これを充実、発展させる。

第12回（1999年）いばらき医療福祉研究集会アピール

本日、私たちは一堂に集まり、第一線医療、保健、福祉の現状や直面している課題について発表し、討論に参加した。私たちの活動は、常に地域社会の中にあり、時代のニーズに応じて新しい改革や進展を求められている。

2000年は公的介護保険制度の発足、医療制度の改変など、医療、保健、福祉に携わるものにとって厳しい試練の年となる。

今日の研究集会で得た強い連帯のネットワークはその試練に立ち向かい克服する自信を私たちに与えた。私たちはそれぞれの職場において、健康で生き甲斐のある地域社会を構築するために、更に努力を重ねよう。そして前途に希望をもってこの研究集会を発展させよう。

第13回（2000年）いばらき医療福祉研究集会アピール

本日、私たちは一堂に集まり、第一線医療、保健、福祉の現状や直面している課題について発表し、討論に参加した。私たちの活動は、常に地域社会の中にあり、時代のニーズに応じて新しい改革や進展を求められている。

本年4月に発足した介護保険は、要介護認定・ケアプラン作成・サービス利用などにおいて数多い課題を抱えのまま、21世紀に持ち越される。今日の研究集会で得た連携のネットワークが、この課題の改善に取り組む力強い原動力になる。研究集会は私たちにその自信を与えてくれた。

私たちはそれぞれの職場において、健康で生き甲斐のある地域社会を構築するために、更に努力を重ねよう。そして前途に希望をもってこの研究集会を発展させよう。

4. 「いばらき医療福祉研究集会」の展望

演題数の増加のみならず、演題発表者の職種も幅広い医療福祉関係者に広がってきました。「つくば国際大学」で開催されるようになった第9回では、発表者職種数は13であったが、第14回では26と倍増しています。まさしく、医療関係者の集会から「医療福祉」分野に関する職種の集会への脱皮、発展が明白になっています。

著者は、21世紀の福祉は高齢者福祉も障害者福祉においても、広義の「医療福祉」が、その重要な大きな部分を占める分野であると考えています。今後ますます、この分野におけるニーズは高まっています。

そこで、時代の要請に丁度合った形で、自然な参加意識を結集して発展してきた、この「いばらき医療福祉研究集会」を大事に育てていくことが、内外から求められていると確信します。

演題と発表者の推移

会場が「つくば国際大学」になった年、第9回（1996年）研究集会と本年、第14回（2001年）研究集会の比較

第9回（1996年）演題数：74題。発表者職種数：13

医療（医師，看護婦，検査技師）演題数14

看護，在宅ケア，リハビリ，その他（助産婦，看護婦，理学療法士，作業療法士，アートセラピスト）演題数11

訪問看護（ターミナルケア）（保健婦，看護婦，福祉団体）演題数11

訪問診療・看護（困難例）（看護婦，医師）演題数7

看護問題（看護婦，看護師）演題数8

難病看護（看護婦）演題数5

経管栄養（看護婦）演題数6

歯科治療（歯科医師）演題数5

デイケア，カウンセリング等（ヘルスカウンセラー，トレーナー，看護婦，栄養士，助産婦，アートセラピスト）演題数8

第14回（2001年）演題数：84題。発表者職種数：26

介護保険関係（医師，看護婦，老健相談員，ヘルパーステーション管理者，管理栄養士，薬剤師，訪問看護ステーション管理者・看護婦，事業者事務，ホームヘルパー）演題数16

高度在宅医療（医師，看護婦）演題数12

医療（医師，看護婦，鍼灸師，理学療法士，介護職員）演題数9

歯科医療（歯科医師，歯科衛生士，看護婦）演題数6

精神関係（老健看護婦，介護福祉士，デイケア助手，）演題数9

機能訓練（作業療法士）演題数4

入院医療（看護婦，介護員，施設長）演題数9

在宅ケア（看護婦，歯科医師，歯科衛生士，介護福祉士）演題数4

リハビリテーション（作業療法士，地域ケアコーディネーター，建築士，看護婦，理学療法士，看護助手）演題数8

施設ケア（看護婦，栄養士，管理栄養士，保健婦）演題数8

5. おわりに

著者の今高は当初から，当研究集会の実行委員，会場統括責任者として，また，平野は実行委員として，共に主催者側として参加しております。そして，われわれは医療福祉の実践現場からの生きた知識を得られる機会として，講義を担当する社会福祉科の学生に，当研究集会への参加を促が

しております。なお、著者の今高は1995年(平成7年)から、「医療福祉論」の講義を継続して担当しておりますが、臨床実践学としての「医療福祉論」を追究する機会と位置付けて、当研究会の取り組みをつづけております。平野は「医学一般」履修学生の、社会福祉に必要な実践的医学知識習得の機会と位置付け、当研究会に参加後のレポート提出を評価しています。

最後に、当研究会が以上のべたように、一定の成果を上げ、発展できたのも、ひとえに、つくば国際大学の御理解と御協力によるものです。

会場を快く提供されている、つくば国際大学学長はじめ当局の皆様に対しまして、謹んで厚く御礼申し上げる次第です。

(いまたか・くにお 社会福祉学科)

(ひらの・ちあき 社会福祉学科)

文献

第1回～第10回茨城県開業医医療研究会記録集 1989年～1998年，茨城県保険医協会

第11回～第13回いばらき医療福祉研究集会記録集 1999年～2001年，茨城県保険医協会

The results and meanings of The Ibaraki Medical Welfare Workshop

Kunio Imataka, Chiaki Hirano

We describe our experiences of The Ibaraki Medical Welfare Workshop. It has been held at Tsukuba International University since 1996, though the beginning was in 1988 by the primary care physicians from all over Ibaraki prefecture. The number of the participants and the papers in this workshop is being increased, for example, 945 participants and 85 papers were present at the last meeting in 2001.

Today, the participants discuss the papers from a practical viewpoint of cooperation with medical treatment, health care, and welfare. We also point out, what they learned there is useful to get skill up for themselves. Furthermore, this workshop is an opportunity to study for many students who aim at working in these field in future.

Key Word: medical welfare, medical treatment, health care, welfare